

教職員を中心とした校内ネットワークによる不登校

防止に繋げる連携

—養護教諭に着目して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

氏名 平澤 夏希

近年、児童生徒が抱える心身の健康問題の一つに不登校があげられる。本研究では、はじめに学級担任を対象に「気になる子」がいるかどうか、またその支援に教員同士のネットワークをどう構築しているのかアンケート調査をした。特に、そのネットワークの中で養護教諭がどのように働いていたのかに注目した。アンケートをうけ、養護教諭に対して半構造化インタビューを実施した。

次に、保健室登校をしていた児童2名を観察し、教員同士のネットワークに注目した支援を行うために、情報共有や支援を実践した。

アンケート調査では、養護教諭は低学年の登校渋りは比較的把握していた。しかし、高学年の登校渋りは気づきにくい傾向が見られたため、高学年の学級担任との情報共有は重要であることが示唆された。

そして、保健室登校の児童と向き合い、対応をしているために養護教諭と教員に連携が求められると考えられた。不登校を防止するために、教員のネットワークの必要性はあり、養護教諭はネットワーク上で必要な役割を担っていることが示唆された。